

My Devil Love

とある日本の小さな町 ソラという男の子が生まれた ごく普通の家族で、経済的にも静かな性格で引きこもりがちだったが、彼には超能力があった
例えば、手を使わずに目で物を動かしたり、遠くまで透視し、記憶力は普通の人より遥かにあった。その力は日に日に強くなり、彼の周りの人達が恐れることもあった。
iqが高く、いつも年上の学年で勉強していたので、その彼らより小さな身体で、からかわれた。

10歳のときに、ソラがおばあちゃんからもらった大切な物を同級生がいたずらし壊したことがあった。ソラは大変怒り、その同級生に仕返しをし、重傷を負わせた事もあった。その際ソラは2週間ほどの休学という罰を受け、両親からは自宅謹慎を命じられた。少し経ち、彼は抑圧されたストレスなどで自分の寝室を超能力について破壊してしまう。そして両親はソラがきっと悪魔の子だと口論になり、ついには彼の元を2人とも去って行った

その後、ソジおじいさんの所へ送られ、面倒をみてもらった。
jtsd（日本技術科学連盟）の幹部として働いていたソジは、彼を自分の息子のように育てた。個室を用意してあげ、更に彼の超能力「テレケネシス（念動力）」の実験もした。

その施設でソラは成長し、沢山の事を学んで格闘技も身につけた。
実はソジは、ソラと同じ年のモモコという女の子を養子にしており、彼女の任務はソラの監視だった。

日に日にソラの超能力は増したが、使い過ぎると頭が痛くなり、性格も乱暴になることもあった。

24歳になったとき、彼は外の世界に興味があり、力を使ってその施設から脱走した。14年はなれていた家に戻り、両親が自分を怖がっている事は知りながら、再会することを期待していた。家に到着すると、家はタイ人のオーナー家族に売られていたのだ。両親を捜すため、ソラはタイまでそのオーナー家族を訪ねに行った。タイ人オーナーの名前が書かれた紙だけを持って。

タイに到着した初日、ソラは空港の近くで車にひかれた。運転手はパイという可愛くておっちょこちょいのタイ人女性だった。パイはlineを操作しながら事故を起こした責任で、ソラを病院に連れて行く。幸い軽傷で済んだ。

「なんでタイに来たの？
これからどこへ行くの？」とパイからソラへ質問をした。彼は、両親を捜しにタイに来たが右も左も分からないんだと説明したところ、「行く所がなかったら私のコンドミニウムに来なさい。」とパイはお詫びを申し出た。

翌日、突然パイの両親が部屋を訪ねに来て、ソラに会ってしまった。パイは、ソラを恋人だとウソをつき、以前から両親に強いられている男性を避けるためでもあった。父親は激怒したが、母は2人が恋人同士だと信じ切らなかった。

両親が帰った後、パイはその事実をソラにも打ち明け、これから自分の恋人を演じてもら

う代わりに、自分もソラの両親探しを手伝うと申し出た。

パイを気の毒に思い、またタイという異国での両親探しを手伝ってもらおうという条件にソラは了解し、その申し出を受け入れた。

パイは彼を買い物に連れていき、友人の麒麟という男を紹介した。麒麟はソラを紹介されたがまだ信用できず、警戒していた。麒麟は歌手として活動しており、ある日彼のpvに出演するはずだった女優が急遽来れなくなり、その役をパイに願い出た。パイは演技は好きではなかったが、これまで麒麟がソラのめんどろを見てくれた事に感謝していたので、出演をokした。

その出演作品は評判を呼び、賞賛された。ケビンという、麒麟の所属事務所の社長息子で帰国子女の男が特にパイを気に入って、それ以来パイに付きまとった。

ソラのおじいさんのソジは、ソラを探し続けついに彼がタイにいることを知りモモコをスパイとしてタイに送った。モモコはソラに近づくために、ケビンに秘書にまでなった。麒麟はモモコに一目惚れした。デートに誘い、結果モモコもソラとパイと仲間うちになることに成功した。

ソラは超能力を使わなくなって来たが、予期出来ない状況ではせざる得ないこともあり、パイはその力に気付いたが、口にはしなかった。

ある日、ある建物のゴンドラが空中から落下した時に、ソラが自分の超能力を使い建物の下にいる人を助けた。周りの人達はソラの力に驚き、ソラはその場から逃走した。パイはソラを探し、家に連れ戻した。そしてソラは自分の過去をすべてパイに打ち明けた。

子供のころ、超能力のせいで怪物のように扱われ、パイまでも自分を恐れているのではないかと心配したが、パイは彼が自分から超能力の話をしてくれるのを待っていた、パイにとって彼は神様が出逢わせてくれた大切な存在と言った。

その後2人はタイ人家族を捜しあて、両親の話を聞いたが、彼らが家を買ったあとに両親が事故で亡くなったという事実を知った。

ソラがその結果にショックを受け、自分はもうタイに居る意味は無くなったので帰国すると決心した。パイはその事実を知りソラを想っていたがその気持ちを伝えられなかった。

丁度その頃、麒麟の新しいcdのプロモーションで来日することが決まり、パイもその理由を使い日本に付いてくることにした。

結局ケビン、麒麟、パイ、ソラ、モモコの5人が皆で日本へ行く事になる。麒麟のプロモーションの仕事を終えたところで、皆でディナーへむかった。ディナーを終え、モモコは仮病を使いソラに部屋まで送らせた。これはケビンの仕組んだ事だった。1人残ったパイは麒麟と待ち合わせをしていたが、またケビンがウソをつき、「麒麟はインタビューの仕事が入ったので来れない」と仕組まれた。その上、ケビンはパイの飲んでた飲み物にこっそり睡眠薬を入れたのだ。

パイと待ち合わせしていたキリンは、来ないパイを心配し携帯に電話をかけたが繋がらなかったため、ソラに事情を聞いた。ソラもパイを心配し、彼女を捜しに行った。ケビンがパイを気に入っていることを知っていたため、モモコにケビンの滞在先を聞き出した。

ケビンの滞在ホテルに行き、ドアを壊し侵入するとベッドのうえにパイが寝転がっていたのだ。ケビンが気づき入浴から出ると、ソラが超能力を使いケビンの首を閉めた。意識の戻ったパイはソラの行為を止めた。「私自身が仕返ししてやる！」と言い習っていたムエタイを使ってケビンをぼこぼこにした。無事助かったパイは、助けてくれたソラに感謝した。

その事件後、パイとソラは日本国内を3日間旅行した（このシーンは、自治体が薦める日本の各観光地や地域の祭り等のイベント、料理や名産物を含め映します。）

ソラは両親が亡くなっていたときのショックを取り戻し、パイに告白をした。モモコとキリンがその光景を見ていて、幸せそうなパイを見てキリンも嬉しく想った。モモコは悲しかったがその思いを口にはしなかった。パイはソラに「もし本当に私が好きだったらタイと一緒に戻って、最初からスタートしましょう」と話し、ソラはokを出した。

～タイでのシーン～

日本から戻って間もなく、思わぬ事件が起きた。パイが運転士ソラが助手席に乗っていた車が、他の車に猛スピードで追いかけられ、銃で攻撃されたのだ。今迄に無いスピードで運転し、ソラが行けと言った細道に逃げ込み、どうにか逃げ切った。

2人は、追って来た車も相手も誰なのか、目的は何なのか、分からずに話し合った。パイは「危ないので日本に戻りおじいさんの所へ逃げて」と提案したが、ソラは「自分の人生は自分で守るから」とタイに残ることを選択した。

その後2人は、モモコとキリンを誘いご飯を食べに行った。店から出たとき、ソラに何者かが発砲しようとしたが、モモコがソラをかばい腕にかすり傷を負ってしまった。皆大変驚き、特にキリンは傷つき、モモコをすぐに病院に連れて行った。その日、ソラは自分が何者かに狙われていることを確信した。

その日以来、ソラはパイから距離を置き、しゃべることもしなく、やがて荷物をまとめて何も言わずに去っていった。パイは大変悲しみ、連絡を取ろうと試みたが出る事はなかった。パイはソラへ最後のメッセージを送る。

「もしお互いが思い合ってるのならば、最後に此の場所に来て、別れを言いたい」

待ち合わせ場所へソラが現れた。

「なぜあんなに冷たくなり、何も言わずに去っていったの」と彼女が尋ねると、

「あのような行動を取ったのは、パイを守るため。自分の近くに居れば危ない目にあうに違いない」とソラなりの考えを伝えた。

その言葉を聞き、パイはソラに平手打ちをした。そしてすぐソラを抱き寄せキスをした。

2人共涙を沢山流し、「これから何があっても私の隣に居て、私はあなたのそばに居る

」とパイは伝えた。その幸せな瞬間、お互い強く抱きしめ合った。

ある日、2人が散歩していると、またソラが狙われ襲撃に合う。しかし的が外れ、その玉はパイに擦ってしまう。ソラは激怒し、犯人を追いたかったが怪我をしたパイを放っておくことができず、ついに超能力を使って近くの屋台にあったフォークを瞬間移動させ犯人の腕に命中させた。しかし犯人は逃走してしまう。

パイは何日間か入院し、その間ソラがずっと看病をみていた。ある日、ソラがパイのために彼女の好物を外へ買いに行った際に、犯人が病院の部屋へ侵入し、パイに麻酔をかけ誘拐した。

モモコがパイを助けようとしたが間に合わなかった。ソラ病室に戻り、事件の一部始終を話した。ソラはなぜモモコがここに居て、誘拐される事を知ったのか疑問に思った。モモコは、今迄ソラを監視してきたこと、ソジじいさんとの関係など全て打ち明けた。

実は、ソジじいさんがソラの両親を殺害していた。ソラの幼い頃、じいさんが彼の身体をつかいバイオテクノロジーの実験をしていたことを両親が知ったからだ。実は、その実験が原因でソラは超能力を持った。それを知ってしまった両親を、じいさんは生かしておけなかったのだ。

ソラはモモコに真実を追究し、じいさんの最終目的を知った。

じいさんは、「GRAVITY INJECTION」という新しい科学薬品を開発して、世界中に広めようとしている。事実を知ったソラは怒りとショックが大きかったが、人質にされたパイを助けるために、自分がじいさんに立ち向かい、自分と引き換えに彼女を助けに行った。

じいさんの働くJTSD本部に向かったソラは、そこで自分を狙い続けていた殺し屋と対面する。その男は、なんとソラの子の双子の兄でケンタといった。幼いころ、この兄は死んだと思われていて、そのため両親も彼の存在をソラに教えていなかった。実はじいさんが、この兄にも超能力の元となる実験を行っていたが、不完全なものだったため、一時心肺停止状態になっていたが両親はもう死んだものと思った。じいさんはその後、ケンタの身体を盗み、生き返った彼を育てながら実験を続けたのだ。これ迄兄を知らなかったソラは大変ショックだった。

今この兄弟は、全身全霊で戦い、ソラに勝ち目があったが、息は絶え絶え切れそうだった

じいさんはソラに説得し、これまでのソラの苦しみを分かっていると云った。怪物のように扱われ、普通ではない人間と見られる苦しみは分かる、じいさんも長年してきた実験は、絶対に成功しないと口々に批判され、周りの科学から変人扱いされてきたからだ。

孫をつかって実験したが、これほどまでに悪影響が出るとは思っていなかった。

「お前を子供の様に育ててきて、お前を悪い様にする訳が無いよ」とじいさんは言った。

ソラもじいさんの言葉を信じ、彼を抱きしめた。その瞬間、突然銃声が響きじいさんがソラを銃で撃ったのだ。ソラは床に倒れ、じいさんの次の狙いはパイであった。パイに発砲した瞬間、ソラは最後の力をふりしぼり超能力を使い、玉の方向を変えさせよ

うとした。しかし、今の彼にはその力は不足していた。玉はそのまま真っすぐパイに向っていったが、モモコがその方向に走っていき、身代わりになった。

彼女は自分の命を捨て、愛するソラが想うパイと幸せに生きて欲しかった。

じいさんは狂ったように怒り、ソラに向けて銃を何発も打った。ソラは床に転がり銃を避け回転しながら空中に飛び、玉の方向を変更し玉はじいさんの首を命中した。じいさんが倒れたと同時に、ソラも意識を失った。

パイは、意識の無いソラを抱きしめ、その後jtsdは閉鎖された。

死んだモモコの墓に、皆が敬意を表しに行き、皆が去っていた後に、立ち尽くすキリンがいた。

ある日の夕方、ソラはパイをおいかけ、花壇に向かった。ずっとそばにいてくれたパイに感謝しこう言った

「ここは、僕にとって、悪い思い出しかないんだ。嫌な出来事がたくさん起き、両親までも失った。けれども、愛する君だけを失わせない！君は、僕にとって幸せな思い出のはじまり、ここで起きた嫌な思い出の代わりに、幸せな思い出にしよう」

「これから僕が君を守り、最後の息が切れるその時迄愛し続けると誓うよ。」

ソラはパイの頬にキスをし微笑み、幸せな笑顔だった。